



**させぼ夢大学**

発行●させぼ夢大学  
広報委員会  
事務局／〒857-0863  
長崎県佐世保市三浦町4-30・松蔵ビル3F  
TEL.0956-25-9555  
FAX.0956-25-9545  
sasebo\_yumedai@yahoo.co.jp

お尋ねテレホン 25-9556

# 夢のつづき

## させぼ夢大学会報

No.172 <2009・4>

平成21年度  
第1回

2009年 **4月16日(木)**

アルカスSASEBO 大ホール

●開 場 午後 5:30  
●開 講 式 午後 6:00  
●講 演 午後 6:30

21年度のスタートは、正に緊迫する国際情勢・社会情勢の中、私たちの日本がどう対応していけば良いのか！…テレビでおなじみの国際政治、安全保障の専門家 森本 敏さんをお迎えしての講演会です。

森本さんは、テレビ朝日「朝まで生テレビ」、読売テレビ「情報ライブミヤネ屋」、NHK「日曜討論」など、年間100本を超えるテレビ番組出演で、「国際情勢は今どのように動いているのか？」「それを踏まえた国内政治における課題は何なのか？」などについて、ニュースや新聞だけでは窺い知れない国際問題を、様々な角



度から分かりやすく解説しておられます。

また、防衛庁、外務省での数々の実務経験に裏打ちされた、安全保障・防衛・国際政治・外交問題のスペシャリストとして、大学院教授としての日々の講義と併せて、年間およそ150回に及ぶという講演、さらには政府の審議会等への参加など、幅広く活躍しておられます。

今回の講演では、佐世保地区に住む私たちにとっても関心の深い、外交・防衛問題等についても、ご示唆をいただけることでしょう。

どうぞご期待ください。

もり もと さとし  
講 師●森 本 敏 氏

## テーマ●緊迫する国際情勢と日本の対応



### 次回のご案内

■と き／5月19日(火)

■講 師／女優 なかむら たまお 中村 玉緒氏

■テーマ／女優として 妻として 女として

●京都市生まれ。祖父は中村鴈治郎、父は2世 中村鴈治郎。兄扇雀は3世 中村鴈治郎。「景子と雪江」(松竹)で映画デビューして以来、映画の魅力にとりつかれ大映に入社。そこで勝新太郎さんと結婚。「橋のない川」で第5回日刊スポーツ映画大賞助演女優賞受賞、「大菩薩峠」でブルーリボン助演女優賞受賞。

近年は映画、舞台、ドラマ、バラエティー、CMと活動も幅広く、京女としての日本的感性と現代的感性をあわせ持つ独特の個性で、世代を問わずお茶の間の人気を得ている。

### 森本 敏氏のプロフィール

●昭和16年東京都生まれ。防衛学校卒業後、防衛庁入省。昭和52年外務省アメリカ局安全保障課に出向。54年外務省入省。在米日本国大使館一等書記官、情報調査局安全保障政策室長など一貫して安全保障の実務を担当。

平成12年より拓殖大学国際学部教授、平成17年より同大学院教授。安全保障・防衛・国際政治・外交問題のスペシャリストとして、原稿執筆やテレビ等への出演、講演、内外の諸議会への出席など多方面に活躍中。





講師の田中優子氏



### 江戸時代に学ぶ

山手町 森本 弘子

今年度最後の講演となった田中優子さんについては知識が少なかつたため、あらかじめ著書を二、三冊買いつめて目を通しておいた。一冊目の著書の中にも講師の多岐にわたる研究の奥深さ、江戸に対する愛着を感じた。さて、いよいよ生の姿と生のお声での講演が始まる。しつとりと、そして粋な着物姿で登場。舞台の中心から少し離れ、パネルの映像を交えながらテーマは「江戸の生活と文化」である。早くから他国との交易がなされ、いろんな人々と文化が混在する長崎は日本で最も江戸を思わせるというところから始まり、江戸の自治、経済は拡大から縮小、購

講演を聴かれた感想をお待ちしています！ ※締め切りは講演日の1週間後(必着)

ともに学んで、明日に生きる  
「させば夢大学」へようこそ

入から生産への時代であった。ひろげた扇を閉じる如く、自らを治め、儉約を旨として世を豊かにし、人々の明るさや賑わいを景気とした。文化の面では、見せない派手、粋々を中心とした浮世絵、黄表紙が横行し、広重、北斎等、多くのアーティストや文人をも生み出した。

ゴミ問題にも触れ、排泄物は肥料となり、紙や布などあらゆるものが自然界へ戻り、完全にリサイクルされるまで、再生と使用が果たされたという。聴いているうちに、われらの祖先が生きた三百年の江戸時代が、今の現代社会の諸問題解決に大きなヒントを与えていることに気づく。江戸時代の人々の「もの」への姿勢や価値観を知るとき、私たちの今の暮らしがいかにものに溢れ、いかに粗末にしているのかを改めて知らされたのである。着るもの、食べるものも自分の手で作らなくなり、まだ使えるものも廃棄してしまう日常の驕りをまざまざ思う。

もう、私たちはここでものを買うことを止め、拡大から縮小へと江戸の経済観念に学び、心してものを大切に作る時が来ていると思う。自然を敬い、感謝し、心に余裕をもって、謙虚に生きるべきなの

であろう。浅学のため、卑近なことしか感じる事ができなかったが、江戸を知り、江戸時代に学んだ一つの大きな収穫の講演であった。

### スツキリ!! 江戸文化

東大久保町 岩崎 勢智子

日曜日の朝の報道番組では、現代の時事問題をきつぱりと分析される田中優子氏。その、きつぷのよさに魅せられ、日曜日の朝が楽しみな私である。毎回の和服も興味をそそる一つであることは間違いない。テレビでしかお目にかかれない田中優子氏に直にお話が伺えるとあって、心弾む思いで会場へ向かった。

「江戸の生活と文化」というタイトルの講演は、実に理路整然としてとても分かりやすい構成であった。氏の時代考証の奥深さも十分に感じる事ができ、その

造詣の深さに感動を覚えた。映像を用いながら、しかもひとつひとつにまとめられたキーワードでの講演の構成は、全く江戸時代の庶民の生活・文化を理解できていない私にも、心地がいいほどごく自然に理解することができ、講演にのめり込む様に惹きつけられた。しかも、今の自分の生活や社会のあり方と比較でき、一つ一つのことから、一層、江戸という時代に親近感を持つことができ、興味がそそられたのである。

学校の歴史の時間では、江戸時代という、大名の名前を覚えさせられたり、大きな出来事などを覚えさせられたりするのが関の山である。しかし、流石に夢大学!! 篤姫もよいが、こんな大変な時代だからこそ、古の庶民の文化や生活に触れ、その知恵を学ぶことも大切ではないだろうか。

### 納めの美学

大塚町 富永 八重子

本年度最後の夢大学は、九十九詩人のなつかしくも美しいコーラスで始まりました。

講師は着物姿も素適な田中優子さん。不覚にも私は彼女を余りよく存じあげなかったのですが、その優しくわかりやすい語りの中に



粋な優子先生





■赤い帯が粋な先生でした。“洗い張り”なつかしいですね。母がしていました。私は、はがすのが好きでしたが、天気の良い日、タンスを開けてみましょうか。  
木風町●西 照美

■初めて知った江戸時代のすばらしい循環型人間生活。時代劇愛好者の一人として、時代考証を心掛けて観れば一段と楽しみが増える様な気がします。スタッフの皆様、一年間御苦労様でした。有り難うございました。次期もよろしくお願致します。  
折橋町●田口 清紀

■田中優子さんのためになる江戸時代のお話、とてもいい勉強になりました。  
権常寺町●大塚 聡

■しとやかに着物姿で登場。「おさめる」をキーワードに、深く、広い視野で江戸文化を解説。ものを見る目を教わった。「粋」が似合う優子さんでした。  
南風崎町●横山 春美

■着物と帯は母上の物、帯止めはお祖母様の譲りものを身につけておられるとのこと。「物は生きている」と話されたが、その物を身をもってリサイクルされ、ご自分らしさを醸し出されているのは流石だと思った。  
京坪町●太郎浦 幸子

■江戸時代は今日以上に生活の工夫がなされ、むだのない生活をしていた事を初めて知りました。三井、大丸、秋葉原等、この時代からあった事に驚かされ興味深い話でした。  
桜木町●原 尚子

■夢のひろばは、舞台一杯に伸声会合唱団の皆さん55名、且つメンバーは幼稚園児から80歳まで、演奏の練習もさることながら、その成果、活動は素晴らしく、曲目演奏ごとに万来の拍手が鳴り響いた。なかでも九十九詩人の楽曲は、させば夢大学が市に寄贈したものであり、胸に沁みる思いであった。(鹿子前広場に歌碑がある。)  
松川町●杉山 源次郎

■イラストで江戸の生活と文化を紹介していかれた中に、色々とゴッホの絵をはじめ、寺子屋、カムイ伝の本、現在の我々の生活と相通じることがたくさんあり、江戸時代のゆったりとした生活を知ることができた。さすが、江戸についての第一人者。着物の似合う田中優子さんでした。  
桜木町●原 敏朗

# 自分を「おさめる」ことからスタートしよう！江戸時代に学ぶ。

次第に引きこまれてゆきました。頻繁に出て来る、おさめるという言葉、治める(国を)、乱れを修める(身につける)、己をおさめるということを生かされた。今の混迷の世を生かすヒントのようなものとお心にとめました。江戸の文化と人々の知恵は現代のエコにつながるようになっていく。帰りの道、ふとハウステンボスの設計者である池田武邦氏の著書の言葉を思い出しておりました。(自然の営みは人間の思惑よりもはるかに奥深い神秘に満ちている)ハウステンボスのテーマの一つである自然との共存に、江戸の知恵が生きています。ごみは再利用して美しい花畑の肥料として使われ、又、生活排水も高度処理したものを再利用し、さらに余ったものは土に浸透させバクテリア処理して、海に流したりはしないのです。池田氏はこのような循環型社会の構想を江戸文化より学んだと語られました。今回の授業は、江戸を通じて

現代にもあてはまるキーワード「納める」という言葉を教えていただいたこと、出逢えたことが本当に嬉しく楽しい学びの時間でありました。  
東山町 中溝 悦美  
拡大から縮小の時代へ  
夢大学のプロフィールより、はるかに実物が素敵な田中優子さんの江戸時代のお話。成る程、成る程とうなずきながら聞き入りまし。江戸時代のキーワードは治めるということに尽きる。つまり、自分を治める自治。困ったときはどうするか。それは儉約で切り抜ける。今盛んに使われている「モットー」は、本来物が持っているものを無くしてしまうことであるということ。又、江戸時代とは、自分たちの力を磨く時代を造ったとも言えるでしょうとも言われていましたね。  
縞模様のはまは、島(他国)と



伸声会合唱団のみなさん

いう言葉から来ているということも、興味深いですね。江戸時代の話は、平成の今の世にもヒントがいっぱい。如何に自分を治めて生きていくか考えさせられます。まだ色々知りたいことがありそうで、田中優子さんが言われた白土三平「カムイ伝」を私も読んでみようと思っています。

## 平成21年度(第18期)講演会予定

平成21年

4月16日(木) 開講式 森本 敏氏

●緊迫する国際情勢と日本の対応

5月19日(火) 中村 玉緒氏

●女優として妻として女として

6月18日(木) サイ・イエンガン氏

●ベストアルバムコンサート

7月23日(木) 三笑亭夢之助氏

●笑いのある人生

9月16日(水) 齋藤 孝氏

●コミュニケーションを拓げる日本語の力

10月15日(木) 藤田 紘一郎氏

●「イキイキ長寿健康法」免疫力を高める生活

11月13日(金) 江守 徹氏

●芝居と人生

12月17日(木) 海老名 香葉子氏(交渉中)

●泣いて笑ってがんばって

平成22年

1月21日(木) 桑田 真澄氏(交渉中)

●私のプロ野球人生

2月18日(木) 宮川 泰夫氏(交渉中)

●魅力ある街とは～のど自慢12年の旅から

## させば夢大学ホームページを開設

させば夢大学にお越しのほとんどの講師さんは“させば夢大学”とは一体どんな大学?実績は?と…。講演依頼があった段階でこのようなことをお考えになるそうです。世はまさにIT全盛の時代。まずはインターネットで調べて確認なさるそうですが、いくら調べてもホームページに辿り着かれず、結局資料を請求なさいます。何人もの講師さんから「これだけの実績と運営をしていながら「させば夢大学のホームページ」もないとはどういうことですか」とお褒めとお叱りともつかない激励を頂戴します。

そこで一念発起、させば夢大学のホームページを開設しました。IT関係に堪能な夢大学のスタッフを中心に、外注せず自力で立ち上げようやく4月1日からの開設にご着けました。まだまだ、準備中のページもありますが、どうぞアクセスしてみてください。

- ①「させば夢大学」で検索すると、画面右上に「させば夢大学」がでますので、そこをクリックしてホームページへ!
- ② 以下のアドレスを入力して、ホームページへ!

<http://www.yumedai.com/>で検索

(いつもどっこんでほしいなあ!)

## お尋ねテレホン(25-9556)もよろしく!

今回の講演会案内や緊急のお知らせがある時など24時間対応しています。



# ふるさと 北松紀行

1

## 「酛蔵」随想

潜龍酒造(株)会長

山下 庄左衛門

ています。

酛蔵の「酛」の字は「さけのもと」と解釈します。清酒の発酵の元となる発酵菌のことをいいます。ですから酛蔵とは、酒母を醸す蔵のことです。この酛は米麴水と酵母を混入し、約20日間で造られる清酒仕込みの工程の最初の、そして最大の難しい仕事です。いかに上手に仕込み、造り上げるかで、その年の酒造りの70%は成功したといわれるほどです。そのため、酒仕込みの責任者杜氏をはじめ、蔵従業員全員が極寒の昼夜を分かつたず、細心の注意を払って酛の管理を行い、酒を育てるといって心で醸し、仕上げます。丹精を込めて育てた酛(酵母)は、言うに言われぬ馥郁とした香氣を放ちます。

酒母を育てることは、今も昔も少しも変わりありませんが、科学万能の現代と違って、先人たちは苦勞を重ねて酒母を育てたのです。それは、先ず酒を造る蔵の設計を発想し、「第一に湿度の低いところであること」「第二に通風が良く乾燥するところであること」この二つの条件を考え合わせ、先人たちは二階蔵で酒母を造ることが理想的であり、これが香りの良いうまい酒が出来る最大の要因であると考

えたのです。この酛蔵が出来上がった元禄の昔は、体験と勘を働かせて酒造りを行い、良酒と悪酒を体験した結果、酛蔵を造つたものと思います。時は流れ現代の酒母造りは、二階蔵でなくとも、すべて科学技術の力によって造れる時代になりましたが、苦心して良酒を追い求めた先人たちの英知に崇敬の念を抱く昨今です。酒造りにも時代の波が打ち寄せ、極寒の朝霧の中、酛蔵の窓から流れていた酒造りの酒唄(酛唄)は、もう聞くことはできません。しかし、皆様方のお陰で、先人の酒造りを偲ぶ酛蔵は、文化財として末永く後世に残ることになりました。酛蔵に伝わる酒造り三百有余年の伝統を心の支えとして、これからも精進する覚悟です。

星が厳しく冴えた夜空に冬の訪れを感じる頃、酒蔵では本格的な仕込みの時季を迎えます。「清酒」の生産は「寒造り」という冬場の仕込みが主力で、江戸時代から品質の高い清酒の醸造は寒造りが最高とされてきました。私の家は元禄年間に江迎で酒造りを始めて三百有余年、初代庄左衛門から連綿と伝統を受け継いできました。

「酛(もと)蔵」は創業当初のものと言ひ伝えられています。1、2階の中央を貫く大きな柱(約7m)は、手斧(ちような)仕上げになっていて釘を全く使わない組込式の蔵です。これにすべての梁桁を架けて屋根を支える構造になっています。柱が少ないのは、作業をたやすくするための工夫だそうです。この蔵は県の有形文化財に指定され



潜龍酒造(株)「酛蔵」

### 事務的のたのしみ



#### ●平成21年度18期がスタート!

16日の開講式・森本敏さんの講演会を皮切りに平成21年度18期がスタートします。つい最近まで「どうにか受け付けてもらえないか」「これまで会員であつてもだめですか」「うっかり払込を忘れていた」などと電話の先で会員にしてほしいと懇願されましたが、丁寧に断りせざるを得ませんでした。来年のことをお願いするのは早すぎますが、会員優先の先行申し込みをご活用くださると安心してす。新聞折り込みの募集要項のハガキでもすぐ出されると間に合います。ところが、未だに抽選と思われる方が、漏れてはならぬと考えられてか2重3重に申し込まれていました。先着順ですのでどうかご留意ください。いずれにしても、事務局は皆様の関心の高さに驚かされた毎日でした。

#### ●開場時刻について

講演会当日は通常午後1時頃から、ステージの設営に始まり、ステージ装花や夢のひろばのリハーサル、夢大学の

スタツフミーティング及び諸準備、講師さんによるステージの確認など様々な準備が開場ぎりぎりまでされていきます。開場時刻は原則午後5時30分とお知らせしていますが、早くから、多くの受講生の方がかたたりすることもありますが、準備が整えば可能な限り開場を早めます。(早めても5時10分以降)

#### ●お守りください!!

- ① 席取りは禁止です。(1階の前の方が目立ちます。家族・友人とはご一緒に入場を!)
- ② 講演・演奏中の私語(おしやべり)は我慢しましょう。気が散ります。
- ③ ビデオ及び写真撮影・録音はできません。(著作権の関係があります)
- ④ 携帯電話は電源を切るか、マナーモードにしてください。
- ⑤ ホール内での飲食はできません。